

# 探鳥会報告

【目的】 裏磐梯地区の野鳥の生息状況を調査する

## 【概要】

### (1) 調査実施日

第1回	2019年	1月 9日	-5℃	雪
第2回	2019年	2月 13日	-5℃	雪のち曇り
第3回	2019年	3月 13日	-4℃	曇り
第4回	2019年	4月 10日	0℃	曇り
第5回	2019年	5月 9日	7℃	晴れ
第6回	2019年	6月 8日	14℃	雨
第7回	2019年	6月 13日	9℃	晴れ
第8回	2019年	7月 10日	12℃	晴れ
第9回	2019年	8月 8日	20℃	晴れ
第10回	2019年	9月 12日	14℃	晴れ
第11回	2019年	10月 10日	3℃	晴れ
第12回	2019年	11月 13日	-1℃	晴れ
第13回	2019年	12月 12日	2℃	雨

### (2) 調査者

#### 裏磐梯エナガの会

五十嵐悟（第2～8、10、12回）、池田明美（第1～6、8～13回）、  
伊藤延廣（第4～8、12回）、小椋敏也（第2回）、粕谷正則（第3～6、8～13回）、  
芝澤隆男、恵子（第3～4、6～10、12回）、武田光正（第4回）、  
友坂豊（第1～4、6、8回）、中村純平（第3回）、  
中村聰子（第1、3、6～7、11回）、平澤桂（第1～2、12回）、  
二神紀彦、ちぐさ（第6回）、永山駿（第2、4回）、  
星崎歩美（第1、3～8、12回）、宮野敏子（第6～7、11～12回）、  
宮本千帆（第4、6、8、10回）、中森正茂（第1～13回）

## 【結果、考察】

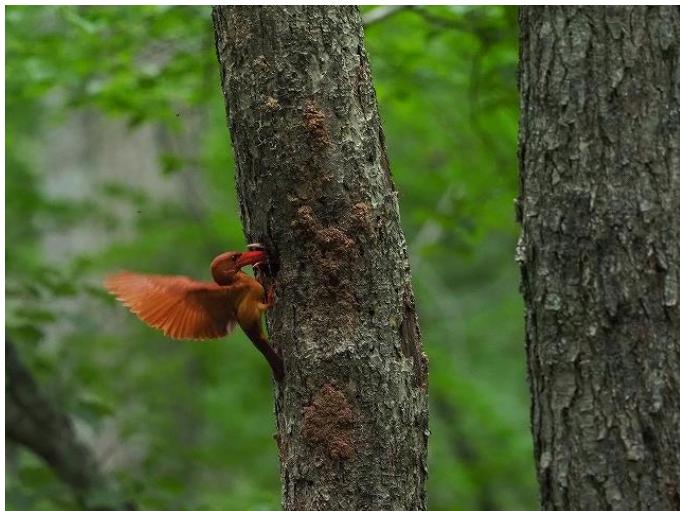
### 冬（1月～3月）

レンジャクは200羽ほど飛来し、カンボクなどの実は残っていたが、1月中旬には裏磐梯から姿を消した。理由は不明。オオマシコも少なく、ベニヒワは確認できず。

### 春・夏（4月～9月）

例年通り4月下旬から飛来し、キビタキ、オオルリも普段通りに観察できた。特質すべきは、マミジロで1つのエリアに3つがいが入り、競合してオスがよく戻っていたため、観察が容易であった。

アカショウビンも例年通り5月20日前後に飛来し、3つがいの繁殖が確認できた。7月20日頃の巣立ち前の雛がアオダイショウに襲われてしまったが、その後2回目の子育てを行い、8月27日に巣立ちを確認した。アカショウビンは縄張りも広く、2度目の繁殖は失敗するが多く、裏磐梯で2度目の子育ての成功を確認したのは初めて。2回目の巣穴は低い場所であったため、巣立ち後の巣を観察することができた（下の写真参照）。



ミサゴは今年で4年目の繁殖が確認できた。オオジシギの飛来は少なく繁殖できているか不明。遷移の進む裏磐梯から姿を消す筆頭と考えている。キバシリは繁殖が定着し、個体数も増えてきている。

## 秋・冬（10月～12月）

数年に一度のハンノキの実があまり成らない年であったため、マヒワが裏磐梯に居つける状態ではなく、例年になく非常に飛来が少なかった。少数がスギ花粉などを食べて過ごしていた。

レンジャクは11月10日頃から飛来し、ヒレンジャク300～400羽、キレンジャク100羽ほどを確認。キレンジャクは関東では珍しいため、バーダーには人気がある。年内にカンボクなどの実も食べつくし、他所へ飛来して行ってしまった。年越し後すぐに見られなくなるのは珍しい。

オオマシコも11月多数飛来し、11月中旬には30羽ほどが確認できた。立派なオスが多い印象。今年はキハダの実成りがよく、ツグミの飛来数が比較的少なかったため、長く観察できている  
(右の写真参照)。

イスカは12月頃に飛来し、年明けには200羽以上の群れになった。アカマツの松かさが豊富なためのようであるが、アカマツは分散しているため、観察しづらい状況であった。



調査記録の詳細は添付資料の通り。

(略号) 姿：V さえずり：S 地鳴き：C 飛翔：F ドラミング：D